

Y02a 「宇宙を学べる大学」のデータで見る大学における天文研究者の変遷

沢武文 (愛知教育大学)

これまで、1993年、1998年、2001年、2005年、2009年、2013年の6回にわたり、「宇宙を学べる大学・天文学者のいる大学」のアンケート調査を実施し、その結果を紙媒体やホームページに公開してきた。これらのデータは、これから大学で宇宙を学びたいと考える高校生に、より正確なデータを提供する目的で整理されたものである。1993年、1998年は紙媒体で、2001年以降は紙媒体と共に、ホームページでも公開を行っている。

これらのデータは、大学や研究機関に対してアンケート（データの提供）を依頼し、回答のあったものだけを、原則、その回答のまま掲載している。ホームページ用のhtmlファイルや紙媒体用のtexファイルは、提供されたテキストデータを、Visual Basicで作成した専用のプログラムを用いて、ほぼ自動的に作成できるようにしてある。

1993年では83大学113機関295名、1998年では55大学68機関324名（総合研究大学院大学102名を含む）、2001年では58大学68機関273名、2005年では70大学87機関381名（総合研究大学院大学60名を含む）、2009年では80大学94機関423名（総合研究大学院大学63名を含む）、2013年では69大学82機関362名の研究者のデータ（氏名、研究テーマ）が掲載されている。これらのデータを用いることで、例えばある年にその大学からデータ提供がなく、「宇宙を学べる大学」のデータとして登録されていなくても、その前後に掲載されているその大学のデータから、その年のスタッフのメンバーを推測できることになる。ここでは、これらの6回の「宇宙を学べる大学・天文学者のいる大学」に記録された大学とそこでの研究者のデータを解析することで、大学における天文研究者数や研究テーマのこの21年間の変遷を明らかにし、それらの結果を報告する。